

全修協提案

学校教育の変化の中で、修学旅行がどのように変化するのか注目していましたが、大きな変化たとえば、「修学旅行の廃止、あるいは縮小の方向へ」などということはないようです。その中で、学校週5日制に関連して引率教職員の振替休日の措置の問題から、土・日は避けたいということにより、出発日を月曜日・火曜日・水曜日いずれかを希望する学校が増えました。そのような希望を取り入れながら連合体として計画輸送を組む事は大変むずかしく、苦慮している地域もあるようです。

さて授業時数の確保等の理由から、二学期制を導入する学校が増えつつあります。当協会もそれに関わる調査を致しましたが、現在その集計中でございます。まだ集計途中ですが、まとめたものを参考資料として提示しました。

この調査結果から「二学期制の導入」に際し、学校行事が見直され、修学旅行についても

・「総合的な学習の時間」の一環として体験学習を取り入れたい。

など「内容」の変化をはじめ

(1) 実施時期

(2) 実施学年

(3) 行き先

等での変化が見られます。

いずれにしても学校教育の変化に伴って、修学旅行は部分的な変化をしながら、これからも長く続いていくものと思われまます。

「旅先で学ぶ」という修学旅行の本質は修学旅行始まって以来変わらず、「学びを中核とした修学旅行」はすべての学校で実践されていることと思います。

その中で大事なことは、学んだことが「自己の確立の糧になる」、「将来生きて働く力として身につく」ような学びであるということでありまます。換言すれば、「学びを中核とした修学旅行のさらなる充実発展」に向けた取り組みが大事である、ということでありまます。

そこで「学びを中核とした修学旅行の充実発展」に向けた取り組みの施策の1つとして

・見学において

・人々との出会いふれあいの中で

・学校間交流をはじめとする様々な体験にのぞむにあたって

一人一人の生徒に視点をしっかり持たせること、体験学習に取組ませるにあたっては自らの課題を持って臨ませることでありまます。

生徒の主体性を生かした修学旅行とはこのようなことと思ひまます。このことを強調したいと思ひまます。

学習に望ませる姿勢として「助手になるな、運転手になれ」ということや、修学旅行に関して「連れて行かれる修学旅行でなく、行く修学旅行にせよ」ということは主体的になれという意味であります。

「学びを中核とした修学旅行の充実発展」に向けた取り組みの施策の2つ目として近年

- ・受け入れ側の努力と工夫により様々な学習素材の拡充
- ・交通機関の発達

等により、

- ・修学旅行の目的地
- ・コース
- ・学習内容

など様々な面で選択肢が拡大しています。

学校と関係者が連携をより深め、これら選択肢を上手に活用することも「学びを中核とした修学旅行の充実発展」につながるものと思います。

選択肢を上手に活用し「新たな修学旅行を創造していく」ことを期待いたします。

さて、

- ・時代の流れの中で、
- ・新しい教育の中の、国際理解教育の具体的な展開として
- ・あるいは学びの発展として、

航空機利用の拡大や国内から海外へという流れの中に入っているようです。

このような状況も視野に入れ、最後にすべての修学旅行を通して「安全確保」について提案をしたいと思います。

危機管理の鉄則は「悲観的に準備し、楽観的に行動する」ということであり、事前に「十分な情報を収集し、準備に万全を期す」ことは言うまでもありません。

一方、旅行中は生徒自身で行動する機会や時間が多く、生徒の自主性に委ねる場面が多いわけです。それゆえ生徒自身に「自らの力で安全を確保する」という意識と行動力を身につけさせることが何をさておき大事なことと考えます。

修学旅行を通して「自らの安全は自ら守る」という自己学習力を身につけさせることこそ修学旅行における最も大事なことであると考えます。

以上、

学びを中核とした修学旅行の充実発展についての一考察。

修学旅行を通して特に「安全確保」について自己学習力の育成の強調。

この2点についてご提案をします。